

豊富な病院敷地を公園化し、  
地域の方々の憩いの場となるようにします。

法人役職員、地域の医療介護に携わる方々、地域にお住いの方々、行政機関の方々など、みなさんに支えて頂かなければ、この総合移転計画は成功できません。「すべての人々にとって、なくてはならない病院」を目指します。

みを全事業所で進めます。教育委員会（既存）と事務委員会（新規）を設置し、中央病院教育研修センターと連携しながら課題を整理します。

5. 葬会との法人合同、保健会中期計画の見直し

京都民医連が五次長計を推進するために設置した「法人在り方検討チーム」は、「第5次長計推進のため、京都保健会と葬会の合併に向けた両法人の代表を含む一定数のメンバーで構成する検討会議を設置し、法人合併の具体化に向けた論議を開始する」ことを提起しました。

保健会中期計画は、経営計画自体も精緻化をはかり、葬会との統合も見据えた中期計画の見直しをおこないます。

6. 保健会の公益性の向上と機能強化に向けて

(1) 社会健康医学福祉研究所の設立、京大との共同研究事業の開始

4月より、「社会健康医学福祉研究所」として開設します。京都大学社会健康医学研究科との研究事業をはじめ、地域の保健医療福祉の質の向上に資するよう活動を進めます。

(2) 総合移転を支える京都民医連の新病院建設募金運動の先頭に立って

2018年度、京都民医連で京都民医連中央病院建設募金運動が始まります。

6月からは、投資予算に相当する2億円を目標に「設備投資基金」を新たに設定します。

寄附金は「医学研究及び専門職育成」、「近畿高等看護専門学校運営」、「京都民医連中央病院総合移転」の3本を募集します。

(3) 無料低額診療事業の普及に向けて  
無料低額診療事業近畿研究会の事務局として、引き続き運営を支えています。また、京都民医連研究センターがとりくむ無料低額診療事業を研究に、社会健康医学福祉研究所が必要な関与をしていきます。

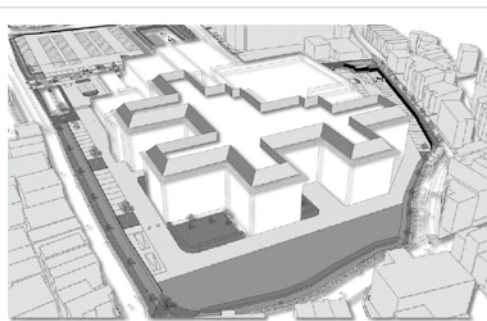
(4) 法人機能の強化に向けて  
他の民医連法人と比べると、機能面でも人的配置でも多くの課題があります。総合移転を契機に、公益法人として、民医連法人としての質的・量的な改善にとりくみます。

\*SDH

健康の社会的決定要因 (Social Determinants of Health) の略。健康は、遺伝子や生活習慣だけでなく、その人の社会経済的な地位をはじめとする社会的要因によっても決定される。

\*\*HPH

Health Promoting Hospital & Health Services の略。「人々が、自らの健康とその決定要因をコントロールし改善できるようにするプロセス」がヘルスプロモーションだが、HPHは、それを実践する医療機関や介護・福祉の事業所のこと。



京都民医連中央病院建設工事建築計画概要

- 計画地：京都市右京区太秦土本町2番1他11筆
- 敷地面積：20,365㎡
- 建築面積：7,851㎡
- 延床面積：24,030㎡
- 建物高さ：17.95m（修景装置含む）
- 構造規模：鉄骨造地上4階建

予算骨子

京都民医連中央病院の総合移転に向け、移転前後の事業年度となります。投資総額は約160億円を超える設備投資となります。法人、県連全体の力で、大事業に挑むために、財政面では自己資金獲得が最大の課題です。その実現可能性は、基本的に損益予算達成です。各事業所は目標に掲げた予算達成に向け、事業活動の発展と合わせた経営活動の前進をおこないまししょう。新中央病院総合移転事業の成功に向け、役員一丸となりましよう。

2018年度損益およびキャッシュフロー計画

(1) 損益目標

経常損益は4億7千600万円とします。総合移転の融資向けに、特別損失として8千万円を計上し、当